報道関係者各位

PRESSRELEASE
2026.11.17
レバウェル株式会社

元介護職の約3人に1人が「続けたかった」と回答
復職のきっかけとしてスポットワークに期待

潜在介護職の復職に関する意識調査



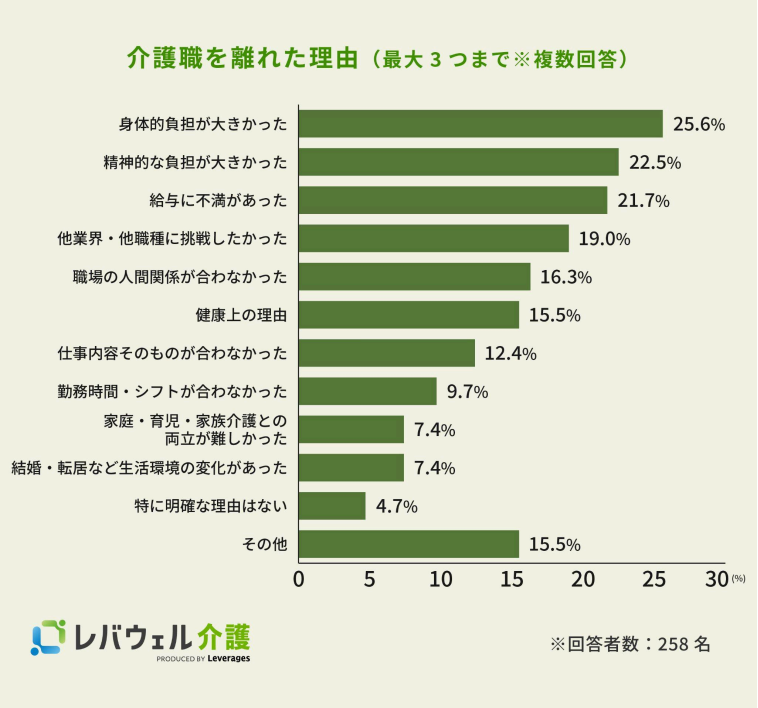
レバウェル株式会社が運営する介護職に特化した求人・転職/派遣サービス「レバウェル介護」（https://job.kiracare.jp/ ）は、介護関連の資格および就業経験があり、現在は介護職に就いていない「潜在介護職」258名を対象に、復職に関する意識調査を実施しました。

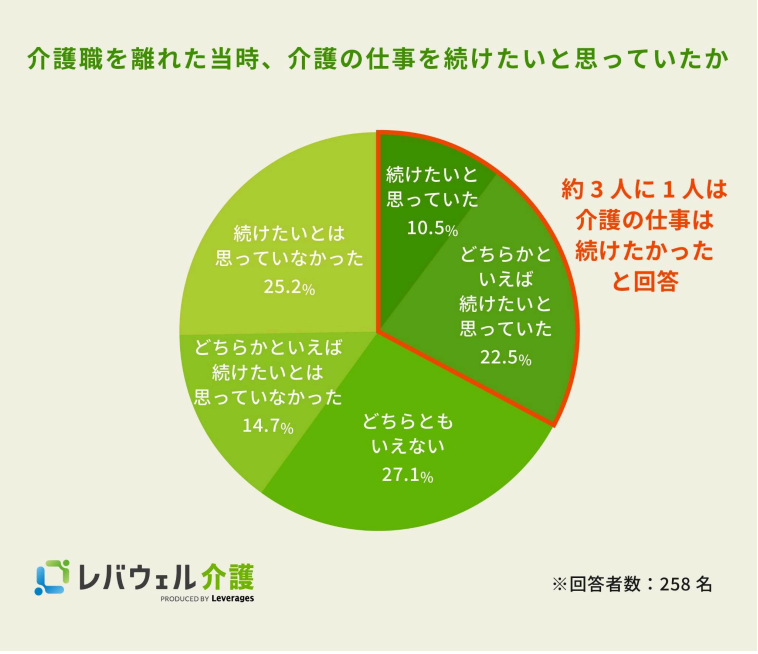
〈調査サマリー〉

1. 潜在介護職の約3人に1人が「介護の仕事を続けたかった」、離職理由は身体的負担が最多
2. 復職を希望・検討する潜在介護職は3割超、復職の壁は心身の負担
3. 復職時は「週3日以下」希望が半数超、午前帯など柔軟な働き方を重視する傾向に
4. 約6割がスポットワークは復職のきっかけになると回答、ブランクがあっても始めやすい点にも期待

1. 潜在介護職の約3人に1人が「介護の仕事を続けたかった」、離職理由は身体的負担が最多

潜在介護職に介護職を離れた理由を聞いたところ、「身体的負担が大きかった（25.6%）」が最多となり、「精神的な負担が大きかった（22.5%）」「給与に不満があった（21.7%）」が続きました。
また、離職当時の気持ちについては、「続けたいと思っていた（10.5%）」「どちらかといえば続けたいと思っていた（22.5%）」を合わせて33.0%となり、約3人に1人が介護の仕事を続けたいと思いながらも離職していたことがわかりました。

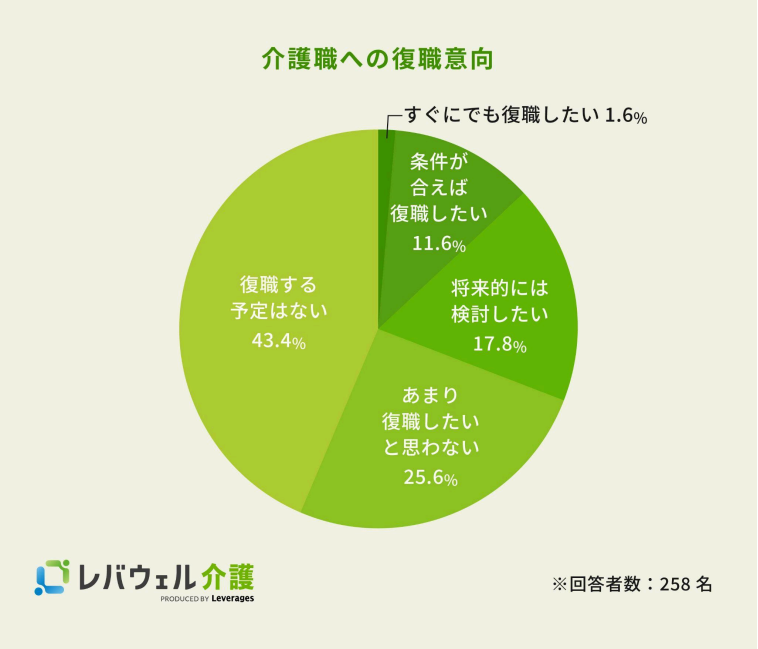


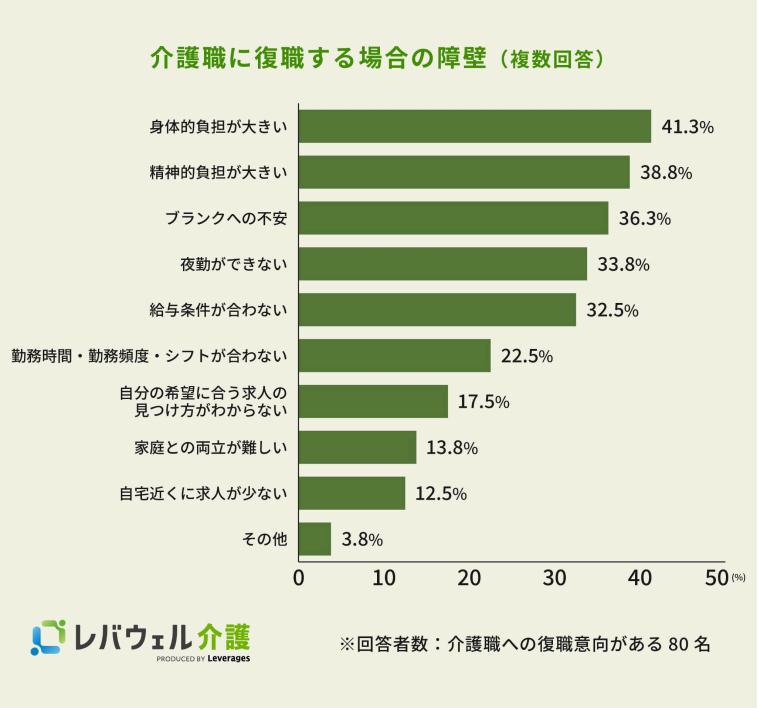


2. 復職を希望・検討する潜在介護職は3割超、復職の壁は心身の負担

介護職への復職意向を尋ねたところ、「すぐにでも復職したい（1.6%）」「条件が合えば復職したい（11.6%）」「将来的には検討したい（17.8%）」を合わせて31.0%となり、潜在介護職の3割超が復職を希望、または将来的に検討していることがわかりました。

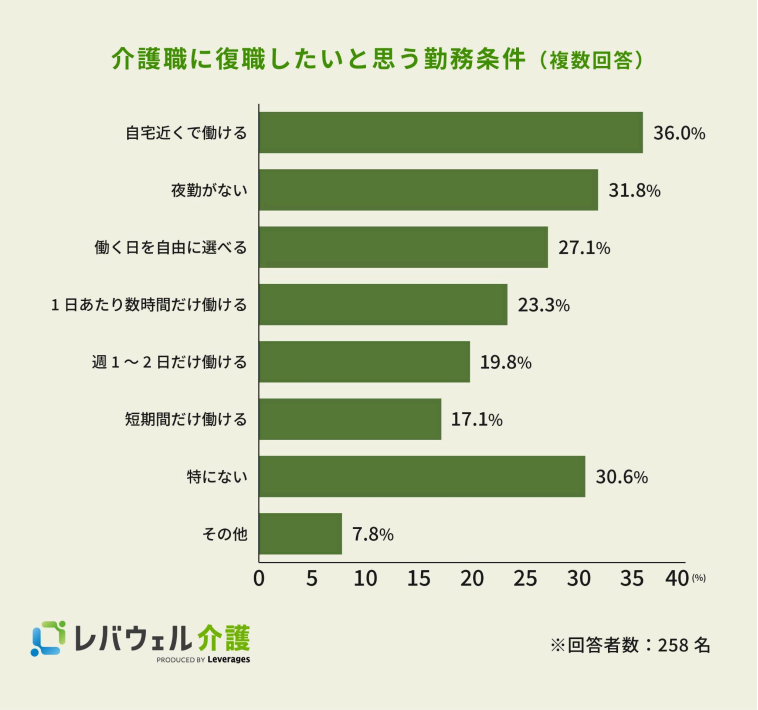
復職に前向きな人に復職時の障壁を尋ねたところ、「身体的負担が大きい（41.3%）」が最も多く、「精神的負担が大きい（38.8%）」「ブランクへの不安（36.3%）」が続きました。このことから、心身への負担や現場を離れたことによる不安が復職に向けたハードルとなっていることがうかがえます。





3. 復職時は「週3日以下」希望が半数超、午前帯など柔軟な働き方を重視する傾向に

介護職として復職したいと思う勤務条件では、「自宅近くで働ける（36.0%）」が最も多く、次いで「夜勤がない（31.8%）」「働く日を自由に選べる（27.1%）」「1日あたり数時間だけ働ける（23.3%）」となりました。復職を検討する際には、勤務地や勤務時間を柔軟に選択できることが重要な条件となっていることが分かります。

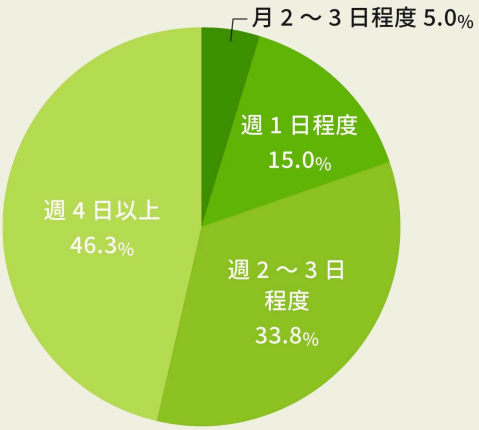


さらに、復職意向のある人に希望する勤務頻度を尋ねたところ、「月2～3日程度（5.0%）」「週1日程度（15.0%）」、「週2～3日程度（33.8%）」をあわせ、半数超が週3日以下の勤務を希望していることがわかりました。

1回あたりの希望勤務時間は「7時間以上（38.8%）」が最多となりました。一方で、「3～4時間未満（17.5%）」「5～6時間未満（17.5%）」「4～5時間未満（12.5%）」を合わせると、47.5%が3～6時間未満での勤務を希望していました。また、希望する勤務時間帯は「9～11時（午前帯）（70.0%）」が最多となりました。

さらに、許容できる片道の通勤時間については「10分未満（8.8%）」「30分未満（66.3%）」を合わせ、7割超が片道30分未満の生活圏内での就業を希望しています。これらの結果から、復職にあたっては、勤務日数や時間帯、1回あたりの勤務時間、通勤距離など、自身の生活に合わせて柔軟に働ける環境へのニーズがうかがえます。

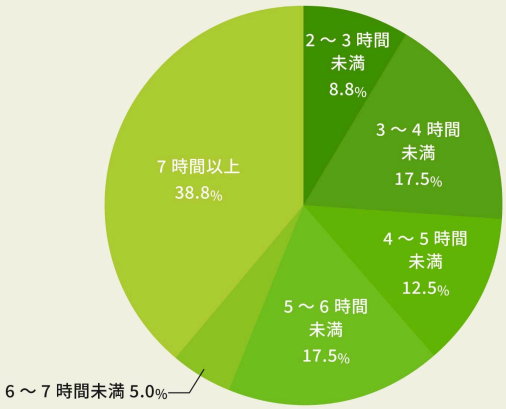
介護職に復職する場合、希望する勤務頻度



レバウェル介護 PRODUCED BY Leverages

※回答者数：介護職への復職意向がある 80 名

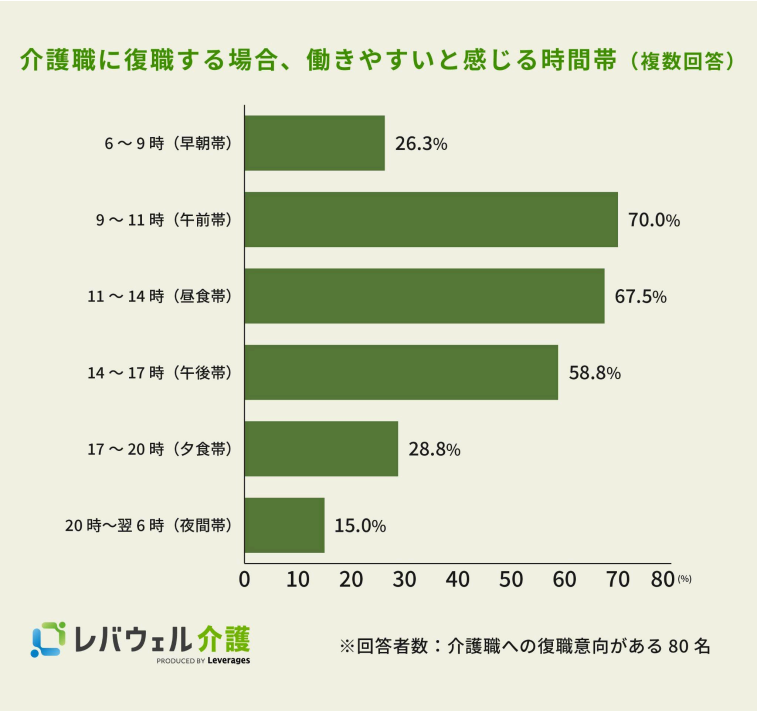
介護職に復職する場合、1 回あたりの希望勤務時間

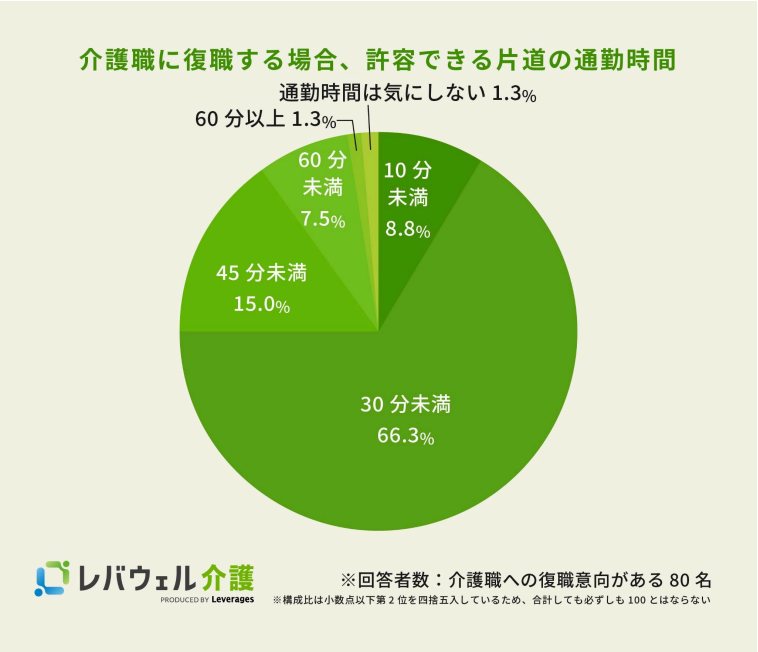


レバウェル介護 PRODUCED BY Leverages

※回答者数：介護職への復職意向がある 80 名

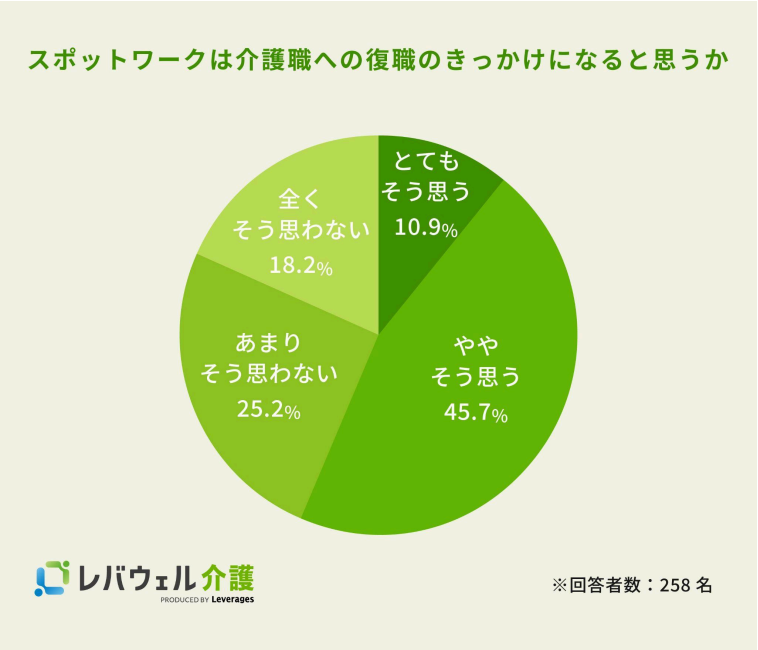
※構成比は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100 とはならない

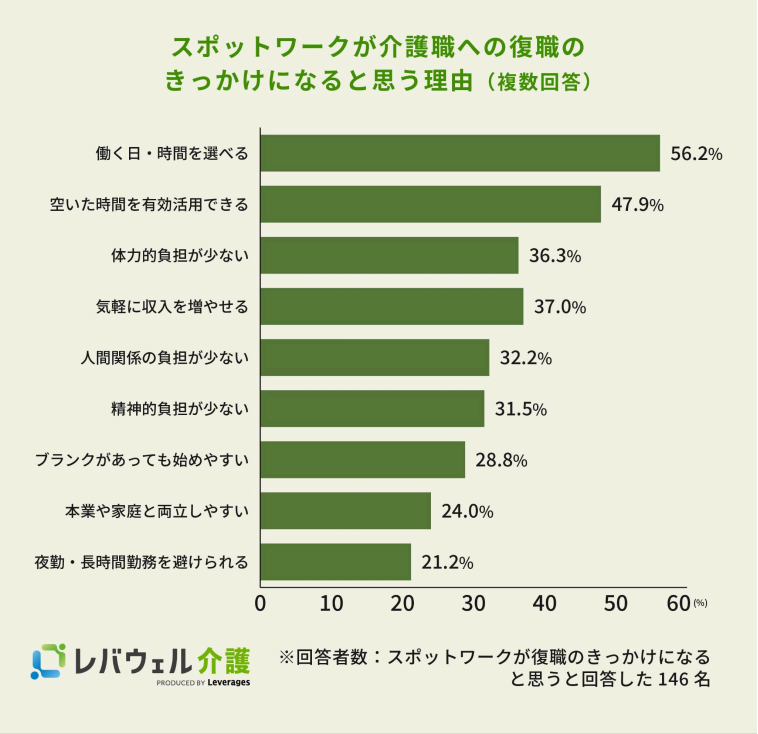




4. 約6割がスポットワークは復職のきっかけになると回答、ブランクがあっても始めやすい点にも期待

スポットワークが介護職への復職のきっかけになると思うか聞いたところ、「とてもそう思う（10.9%）」「ややそう思う（45.7%）」と回答した方は合わせて約6割にのぼりました。その理由としては、「働く日・時間を選べる（56.2%）」「空いた時間を有効活用できる（47.9%）」が上位となっています。また、約3割が「ブランクがあっても始めやすい（28.8%）」と回答しており、働き方の柔軟性に加え、ブランクへの不安を抱える人にとっても、復職への一歩を踏み出すきっかけとなる可能性がうかがえます。





〈レバウェル株式会社 取締役社長 小西東 のコメント〉

高齢化の進展に伴い介護人材不足が深刻化する一方、介護福祉士の資格を持ちながら、福祉・介護・医療分野に就業していない人は全国で約12万人*1にのぼるとされています。こうした「潜在介護職」の復職を後押しし、再び活躍できる環境を整えることは、長年にわたる重要課題となっています。

今回の調査では、介護職を離れた人の約3人に1人が離職当時「介護の仕事は続けたいと思っていた」と回答しており、仕事そのものへの意欲を持ちながら離職した人が少なくないことが明らかになりました。

復職にあたっては、心身への負担やブランクへの不安が障壁となる一方で、約6割が「スポットワークが復職のきっかけになり得る」と回答しています。勤務日や時間を自身の状況に合わせて柔軟に選べる働き方は、復職へのハードルを下げる選択肢の一つになり得ると考えられます。

介護人材不足の解消には、新たな人材の確保に加え、資格や経験を持つ潜在介護職がそれぞれの状況に応じて現場で活躍できる機会を広げることも重要です。スポットワークを含む多様な働き方の選択肢を整えることが、潜在介護職の復職を後押しする一助になると考えています。

*1：社会福祉振興・試験センター「令和2年度社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士就労状況調査結果」
https://www.sssc.or.jp/touroku/results/index_r2.html



◆小西 東氏・プロフィール

レバウェル株式会社 取締役社長

看護領域の人材紹介事業に従事し、地方支店の立ち上げをはじめ、採用、組織構築、営業企画などを推進。事業部長として事業運営全般を統括する。
2022年、レバウェル株式会社執行役員に就任し、2025年、取締役に就任。2026年4月1日付で、取締役社長に就任。医療系紹介事業協会代表幹事も務める。

＜調査概要＞
調査年月：2026年7月10日（金）～2026年7月11日（土）
調査方法：インターネット調査
調査主体：レバレジーズ株式会社
実査委託先：外部調査会社
有効回答数：258名
調査対象：介護関連の資格および就業経験があり、現在は介護職に就いていない方

レバウェル株式会社（ **https://corp.levwell.jp/** ）
レバウェル株式会社は、「この国のウェルネスを支える」をビジョンに掲げ、医療・福祉・ヘルスケア業界に特化した人材関連事業およびSaaS事業を展開しています。日本の超高齢化社会において深刻化する労働力不足に対し「人材供給・最適配置」「新たな働き手の確保」「生産性向上」の観点から課題解決を支援し、誰もが安心して医療・福祉・ヘルスケアサービスを受けられる社会の実現に貢献しています。
レバウェル株式会社は、レバレジーズ株式会社のグループ企業です。

▽『レバウェル』 医療・介護・保育・ヘルスケア業界に特化した求人・転職プラットフォーム
http://levwell.jp
▽『レバウェルスクール介護』 介護資格取得スクール
https://job.kiracare.jp/info/school/
▽『わんコネ』 医療福祉施設向け入退院支援SaaS
https://one-conne.com/

レバレジーズ株式会社（ https://leverages.jp/ ）

本店所在地：東京都渋谷区渋谷二丁目24番12号　渋谷スクランブルスクエア24階 /25階
代表取締役: 岩槻　知秀
資本金　：5,000万円
設立　　：2005年4月
事業内容　:IT、医療・ヘルスケア領域をはじめとした人材事業、SaaS事業、M&Aコンサルティング事業 など

「社会課題の解決」を軸に、IT、医療・ヘルスケア領域をはじめとした人材事業・SaaS事業、M&Aコンサルティング事業など、国や業界をまたいだ様々な領域でサービスを展開。2005年に創業以来、黒字経営を継続し2025年度は年商1700億※を突破しました。業界を絞らないポートフォリオ経営と、各分野のスペシャリストが集うインハウスの組織体制で、時代を代表するグローバル企業を目指します。（※会計基準変更後）

本リリースに関する報道関係のお問い合わせ
レバレジーズ株式会社　広報部
MAIL：pr@leverages.jp